



YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

世界へのプレゼントになろう

「世界へのプレゼントになろう」 *Be a gift to the world*

2015-16年度 RI会長/K.R.“ラビ”ラビンドラン RI/D2590ガバナー/箕田 敏彦 横浜旭RC会長/新川 尚

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2 後藤ビル2F

TEL.045-365-3273

FAX.045-365-3132

Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

〒241-0821

例会場 二俣川相鉄ライフ4Fコミュニティサロン

例会日 毎週水曜日/12時30分～1時30分



2016年1月27日 第2229回例会 VOL. 47 No. 27

- 司 会 SAA 二宮麻理子
- 開会点鐘 会長 新川 尚
- 斉 唱 それでこそロータリー
SL 田川 富男

■出席報告

会員数	32名	本日の出席数	25名
本日の出席率	89.29%	修正出席率	96%

■本日の欠席者

後藤、福村、松本

■他クラブ出席者

関口 (横浜瀬谷RC)

■誕生記念祝・ポールハリスフェロー表彰



安藤 達雄会員 (10.28)

■会長報告

皆様こんにちは、先週末から寒波が日本を覆ってしまして、普段、雪の降らない地域でも雪が降りました。この寒波は地球温暖化が原因とのことですがいまひとつピンときませ

ん。私は風邪を引いてしまい、昨日は一日中寝ていました。皆様も体調にはくれぐれも気をつけて頂きたいと思います。

先週の水曜日(20日)に第4回クラブ協議会が開催されました。各委員長から今年度前半の活動報告があり、ほとんどの委員会は順調に活動出来ているとのことでした。また、今年度後半には、職業奉仕委員会、災害対策委員会、国際奉仕委員会で活動が予定されておりますので、皆様のご参加をお願いします。

会計から、例会にかかる費用を抑える必要があると提案が有りましたので、理事会にて検討することとなりました。

○地区関係

1) 第32回 RYLA 見学のご案内

日時 2月20日(土)～21日(日)

場所 横浜市野島青少年研修センター

締切 2月5日

青少年奉仕委員をはじめ多くの方々に実際のプログラムをご覧いただき、RYLAをより一層理解していただきたいとのことです。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

2) 2015 学年度 期間終了ロータリー米山奨学生終了式・歓送会開催のご案内

日時 2月28日(日)午後5時～8時

場所 ホテルキャメロットジャパン

参加費 2,000円

米山記念奨学委員長の増田さん、カウンセ

ラーの二宮さん、ご出席をおねがいします。

■幹事報告

1) 例会臨時変更のお知らせ

○横浜港北ロータリークラブ

日時 2月11日(木)祝日休会

日時 3月31日(木)移動夜間例会 観桜会
点鐘 午後6時30分

■第4回第5グループ会長・幹事会

日時 1月20日(水)午後6時より

場所 新横浜国際ホテル南館4F 宴会場

○報告事項

1) 2015～2016年度IM、次年度IMについて

・1月18日現在のクラブ登録数は504名
地区役員等登録数35名、
多数の登録のお礼が、一樂ガバナー補佐より
りされた。

・次年度のIMについては、次年度ガバナーの
考えで、グループで行うのではなく、地区
全体でロータリーデー(2017年4月22日)
として行う予定。IMは今年度で終了となる。

2) 7クラブ合同例会について

・7クラブ合同例会の式次第(案)が提出さ
れた。各会長・幹事に意見を緩め、訂正さ
れる。

・次年度の7クラブ合同例会については、5
クラブ(田園・新横浜・たま・あざみ・緑)
と2クラブ(旭・瀬谷)で開催するか、7
クラブ全てに声を掛け7クラブ合同例会に
するかを検討する。

3) 地区補助金について

・MOU 提出期限2月10日(水)
会長エレクト、会長ノミニーが署名

・地区補助金申請期限
2016年2月1日(月)～4月26日(火)

・今年度より新たに補助金の対象となるもの
(青少年交換学生の経費・RYLA・ローターア
クト・インターアクト・建設・シェルター
協力団体職員の旅費・他団体が実施する活
動の支援)

*他団体とは、他団体と共同、コラボレーショ
ンしているプロジェクト。

4) クラブの活動報告

・各クラブの研修内容について報告があった。

5) その他

次回、会長幹事会3月16日(水)午後6時より

■災害対策委員会

五十嵐 正



1/25日(月)より一週間旭区役所ロビーギャラ
リーにおいて、広報委員会のご協力で、地区
大会でも紹介致しました岩沼の子ども美術展
を開催致しております。ぜひご覧になって下
さい。

■研修・広報委員会報告

杉山 雅彦



研修委員会では、本年度より改定された国
際ロータリーの各月間テーマをグループで研
究、発表をしていくこととしています。今回は、
第一グループメンバー(内田会員、青木会員、
秋内会員、杉山会員)、オブザーバーとして
安藤委員長をお招きし、議論、研究、研修し
た内容を報告いたします。

今月の国際ロータリーのテーマは、ロータ
リーの重点分野である「平和と紛争予防、紛
争解決」です。

・毎年20,000人が地雷によって手足や命を奪
われている。

・今日、紛争や迫害により、5,100万人が難民
生活を強いられている。

・紛争で命を落とした犠牲者の90%が一般市
民で、そのうち半数が子供である。

・世界で18歳未満の子供30万人が、少年兵
として紛争に巻き込まれている。

という現実がある中で、「ロータリアンとし
て行動しよう」ということで、奉仕プロジェ
クトを立案する際は、これらの分野を意識す
ることが推奨されています。

例えば、

- 1) 社会から疎外され、暴力や迫害の危険にさらされた人々を支援する。
- 2) 紛争の原因について学ぶ平和フォーラムを開催し、市民間土で話し合う機会を提供する。
- 3) 紛争で親を亡くしたり、負傷したり、心に傷を負った子供たちを助ける。
- 4) 紛争から逃れてきた人々を救済する。
- 5) 現地の学校、孤児院、職場、市民センターなどと協力して、紛争解決や仲裁に取り組む。
- 6) 理解と平和を推進するため海外のロータリークラブと友好を築き、奉仕活動で協力する。
- 7) ロータリー平和フェローシップの候補者を探す。
- 8) 紛争の原因（貧困、不平等、民族間の緊張、教育の欠如）の解消に取り組むプロジェクトを計画する。

現実的には政治や宗教もあり、非常に難しいテーマとなっております。正直、当クラブとしてどのように対応すべきかということについては、結論に歪りませんでした。当面の対応として意見集約したものは、以下の通りです。

- 1) 以前卓話で「難民を助ける会」をお招きし、勉強したり、寄付を実施しましたが、当面は「国際奉仕」のから側面の支援を継続し、引続き当テーマについては時間をかけて議論することが良い。
- 2) ロータリーカードの新規作成、利用を推奨し、ポイントを国際ロータリーに寄付していくことも良い。

との意見を集約しました。本当に難しいテーマであったので、皆様のところでも意見があったらお聞かせ下さい。

■ニコニコ BOX(会員敬称略)

新川 尚／安藤達雄会員、お久しぶりです。本日は卓話宜しく願います。

市川 慎二／安藤達雄会員、お元気そうで何よりです。本日の卓話よろしく願います。

安藤 達雄／皆さんにたいへんご心配をして頂き、ありがとうございました。今日は、私の生きざまの一端をお話させて頂きます。よ

ろしく願います。

関口 友宏／安藤達雄さんのご回復を祝って。
太田 勝典／安藤達雄さん、卓話楽しみにしています。

斉藤 善孝／安藤達雄さん、本当にお久しぶりです。お元気になられて良かったです。本日の卓話楽しみです。

内田 敏／安藤様、お元気な姿を拝見し喜んでおります。無理をしないで暖かくなりましたら出席されますよう十分に体力をお造り下さい。本日の卓話楽しみにしています。

倉本 宏昭／安藤会員、お元気そうで何よりです。卓話楽しみです。

佐藤 利明／安藤達雄さん、お元気になられてなによりです。又、本日の卓話よろしく願います。

吉原 則光／安藤さんのお元気な姿にほっとしました。大寒の折、お身体に充分お気をつけください。本日の卓話、楽しみにしております。

青木 邦弘／①安藤さん、卓話楽しみです。②25日に5分間情報の為に打ち合わせを行いました。杉山さんご苦勞様でした。

五十嵐 正／安藤達雄さん、お元気なご様子で感激です。本日の卓話楽しみにしております。

増田嘉一郎／安藤達雄さん、お久しぶりです。お元気な卓話を期待します。

田川 富男／安藤達雄先輩、お久しぶりです。また早々の卓話ありがとうございます。

滝澤 亮／安藤達雄さん、お久しぶりです。本日の卓話よろしく願います。

二宮麻理子／安藤さん、お久しぶりです。本日は卓話よろしく願います。

安藤 公一／祝、サッカー日本代表オリンピック出場決定！

佐藤 真吾／安藤達雄さん、お元気そうで何よりです。卓話よろしく願います。

杉山 雅彦／安藤達雄会員、お久しぶりです。本日の卓話、宜しく願います。

秋内 繁／安藤達雄さん、お元気そうで何よりです。私と同じ牛の弁、お互いに大事にしましょう。

■卓話 私の生きざま 安藤 達雄
私の病気で会員の皆さんにご心配をおかけしまして誠に申し訳ございませんでした。



今日は私の卓話当番が昨年10月になっていたのを延ばして頂いたのですが、特に話題もないので「私の生き様」をご披露させていただきます。

古い書類を片付けていましたら公開経営指導協会で紹介された記事ができました。それが私の創業時代「筵一枚からのスタート」というわけです。

横浜市鶴ヶ峰を根城にファッションセンター、焼き肉チェーン、パーラー、店舗、リース等多岐にわたる業種の仕事を手掛ける安藤達雄氏は52歳、16歳で一家の大黒柱を失い、その時から給仕、露天商、闇市と、まさに体を張って生きてきた人である。安藤社長の人生は波乱万丈であったが、血の滲み出る多くの苦勞をした割に、人柄は穏やかにして謙虚そのもので、多くの人々から親しまれ、信頼されている。地域社会及び同業界でもこの人ならではのといった各種の世話役をしている。又発想は柔軟そのもので、変化に対する適応性に富んでいる。ここまでは紹介文ですが、これからが本番です。

旧制中学2年までは順風万帆だった。Y校3年の5月に親父が47歳で腹膜炎でなくなってからが大変だった。住居も借家で何もないサラリーマン家庭、家族は母・祖母・兄妹5人（姉・小生・弟・妹二人）経済的負担が一気にのしかかってきた。母は少しでも余計に稼げる所を探し、小さい体でトラックの積み荷の人夫まで始めたが、祖母に「今かあちゃんが体を壊したらそれこそ家族離散の憂き目をみなくてはならなくなるからもう少し楽な所へ変わった方が良い」と言われて横浜の山元町にあった文寿堂の食堂部に変更、少しでも安くと市電の早朝割引を利用して通っていた。

現在は生活保護を受けるのは大威張りだが、当時はまだ「お上の世話になるなんて恥だ」という時代だったので、「生活保護をうけたらどうか」という話もあったらしいが、母は「子供が将来成人した時、「あの子はお上の世話になって育った子だよ」と後ろ指を指されては可愛そうだからと言って断ってきたとの事。後年になって聞かされた。

私は父の知遇だったY校の簿記の飯田先生の紹介で毎日新聞横浜支局の夜の給仕になった。新聞記者の書いた原稿を支局長がチェックして通った原稿を明日の朝刊に間に合わせるために本社へ届ける作業が主な仕事であった。相生町の支局から自転車で桜木町の貨物扱い所へ届けるだけだが、発車時刻に間に合わせなければならない。ところが新聞記者はずぼらな人が多いから、なかなか早目になどというわけにはいかない。いつもぎりぎり自転車をすっ飛ばすのだ。

Y校4年の秋頃より勤勞奉仕が多くなり、アルバイトの給仕に行く時間に遅刻するようになってきた。アルバイトに行かなければ月謝が払えないし、勤勞奉仕に行かなければ学校に籍は置いておけない。そこでY校5年の4月級友の藤原君と一緒に陸軍特別幹部候補生に志願した。（母には無断で）そして昭和19年8月15日陸軍航空隊中部第98部隊（滋賀県八日市場）へ入隊した。戦闘機の整備（プロペラの間から機関銃の弾が飛び出してゆくカム調整という）整備兵となった。要するに軍隊は板挟みの逃避行だったのである。

それから立川の教育隊、宇都宮、高萩飛行場と転属、宿舎は埼玉県入間郡笠幡の農家に二人ずつ分宿、もう終戦間近だったので食事もろくに配給されず、近隣の農家には随分お世話になった。

昭和20年8月26日除隊、米軍が一番早く厚木の飛行場に進駐するから神奈川県出身者は一番早く帰れという命令が出て横浜へ帰ってきたものの一面焼け野原で、どこへ行ったらよいのかわからず、元アルバイト先の毎日新聞横浜支局が耐火建築物だったので尋ね、自転車を借りて母のすぐ上の姉の嫁ぎ先（神中線新川島駅上）へ行って見たが居らず、座間の栗原に居るとのこと。一度も行ったことがないので地図を描いてもらい、重い荷物を

積んだ自転車を引いて尋ねる。(母の二番目の姉の嫁ぎ先の農家である。)物置に箆を引いて寝泊まりしていた。

終戦直後の生き様(1)

栗原から横浜南区永田町へ

小生が軍隊から除隊して、約2か月経過した頃、父方の従兄(読売新聞記者で県政記者クラブの責任者をしていた西条昇、内山知事の秘書を長年務めた)が尋ねてきて、「横濱へ出る気持ちはないか?出る気があれば、俺の知り合いの社長が事務所の2階があいているからそこを貸してやってもよいと言っているがどうか」と連絡にきてくれた。その晩、家族会議を開き、全員賛成。早速準備して引越し、家具も家財も何もないので、引越しも簡単、家族7人で板の間の生活が始まる。トイレ、台所等は1階を使用してよいということで、1階にはやはり西条の縁先の諸星さん夫妻が住んでいた。毛布5枚で家族7人が重なり合って寝ていた。不平など言っている暇はない。会社はアルミニウムで鍋やフライパンを作っていた。私もやることがないので手伝わしてもらい、アルミで鍋を作った。日当は10円だった。お婆さんが2階の上り下りで苦労していたので、1階の4畳半に移らしてもらった。こちらは畳がひいであつた。お婆さんはここで他界した。数え年で84歳腎迂炎だった。母が鉄の輪っばのリヤカーに死体を乗せて久保山へ焼いて貰いに行った。昭和21年終戦の翌年だった。

先の西条昇は内山知事に認められて知事の秘書となった。秘書時代は羽振りが良く、蒔田から岡村天神へ行く途中に蒔人荘という別荘を持ち、愛人を固い、書生も4~5人たむろっていた。私の弟もその中の1人だった。西条の顔で県税事務所へ勤務し、Y校の夜学に通っていた。弟は私の除隊した日と同日に横須賀の海軍養成所から帰還していた。私の3歳下だからまだ14歳だった。Y校では卓球部で活躍し、国体の県予選で高校個人で2位までいったことがあつた。

終戦直後の生き様(2)

商売の第一歩

Y校の友人で実家が雑貨卸をしていた小沢実君と偶然道路で出会った。近況を話していたところ「最近竹筒の電池が入荷したので、

安藤君売ってみないか」という話が出て、私も仕事探しをしているところだったので、二口返事で「それではやらしてもらいます」ということになり、小沢君はすぐに届けてくれた。小生は箆をどこからか探してきて、井土ヶ谷駅前の交番寄りの方に陣取り、箆を引いて竹筒の電池を並べてしゃがんで、お客さんの着くのを待っていた。20円位だったか記憶が不確かだが、これが小生の商売の第一歩となった。

家に帰ったところ、母は浦舟町の十全病院の帰りに浦舟町の市電の停留所の前で七輪を売っていたので、誰か欲しい人に分けてやってもよいからと思って3個買って来た由、通町の市電の駅で降りたら「その七輪はどこで買ってきましたか」と聞かれたので「よろしかったら分けてあげますよ」と言ってその場で3個売ってしまい、又引き返して3個買って来たとのこと。兎に角終戦後は何もなかったもので、そういうことがあつたのです。母はそれが商売の始まりだったわけです。奇しくも同じ日だったとは?

終戦直後の生き様(3)

永田から平沼へ

露天商でいくらかお金に余裕が出来てきたころ「平沼にバラックの売り物がでた」という情報が入り、それを5,000円で購入しました。焼けトタンを拾い集めて作った6畳一間のバラックでした。流しとトイレはついていました。床は板の間に毛布が引いであるだけ。それでも現在よりも良いということで購入したものでした。商売は井土ヶ谷駅前だったので、母は毎日鉄の輪っばのリヤカーをカランコロン、カランコロンと大きな音を立てながら保土ヶ谷の切通しを上り下りして通ってくれました。その頃は南京豆をセロハンの三角袋に入れて10円で売る商売でした。私が千葉まで仕入れに行つて、夜フライパンで、煎つて大体一袋に15粒位ひとかわ並べ、蓋をする。その作業は家族全員でやりました。生の南京豆はドラム缶に入れて保存していました。虎の子のお金は風呂敷に包んで、ドラム缶の南京豆の中に隠しておきました。毎日お金が増えていくのが楽しみでした。

終戦直後の生き様(4)

平沼から南太田二丁目へ移転

平沼に1年半位いただろうか。今度は4間ある日本家屋が72,000円で売りに出ているという情報が入り井土ヶ谷駅に近いし、のどから手が出るほど欲しかったが、残念ながら手元に52,000円きりなかった。そこで思いついたのが、久保長治さん(元米屋で父の友人)この人が永田に住んでいたのもので、訪問して理由を話したら不足の20,000円を貸してくれました。但し月1割の利息(その頃はこれが当たり前でした)

毎月利息2,000円を届けに行くと久保さんは喜んで商売のやり方を教えてくれてたいへん勉強になりました。その時の喜びは格別なものでした。焼け残りの中古家屋でしたが、4間ある家に住んだことがなかったものですから。家族全員大喜びでした。露天商は雨が降ればだめ、風が吹けばだめ、お巡りさんが来ればだめ、(当時は統制経済の時代ですべてが配給、露天で扱えるものは何もなかったのです。)ですからお巡りさんが来ると、品物は持っていかれてもいいから、身体だけ逃げるのです。

ある日こういうことがありました。母と私と南武線の登戸へ梨を買い出しに行き、帰りに横浜駅で京浜急行に乗り換えるとき、私だけお巡りさんに捕まってしまい戸部署に連行され、一晩ぶた箱に泊らせられました。母は先に電車へ乗って難なく帰れたそうです。私が帰らないので随分心配したそうです。でも翌朝無罪放免で帰してくれました。背負っていた荷物は返してくれませんでした。警察ではどう処分したのでしょうか?

その頃は野菜の商いが多かったのです。(キュウリ・トマトで随分儲けさせて頂きました)買い出しは貨物運搬自転車で小机・川和方面でした。前後に大きな駕籠を付けて15~16貫目の荷物を乗せて1日2往復は当たり前、それでも足りず西戸部の目代さんに頼んで運んでもらいました。キャベツは松田、ミカン焼津、玉ねぎは二宮まで電車で大きなリュックを背負って運んできました。まだ19歳の時でしたから、否応なしで、頑丈な身体が作られたと思っています。

そうこうしている中に金子の叔父(母の弟)がフィリピンから帰還して養鶏を四季美台でやっていましたが、今度山羊や兎を買い付け

てその肉を寄せハムの原料として納める仕事を見つけたので手伝ってくれないかという話がきたので手伝うことにしました。鶴ヶ峰駅の傍に理研のハム工場が出来たのです。(寄せハムの原料として山羊・兎の肉が必要だったのです。)

終戦直後の生き様(5)

山羊・兎の買い出し

南太田から直径7~8センチ位の太いタイヤで前後に鉄製の縦横50-60cm位の荷台をつけた自転車で津久井郡中野まで通い、(橋本までは八王子街道を行くのですが、道路の中央は舗装されていましたが、両脇はじゃり道でした。)砂利道を片道3~4時間かけて(パンクも度々して手こずりました。)農家を一軒一軒回り「山羊・兎を売ってくれませんか」と言って廻りました。沢山買えた時は津久井郡中野の叔父の知り合いに預かって貰い翌日トラックを借りて引取りに行くのですが、一頭か二頭の時は生きた山羊を自転車の前後にくくり付けて四季美台まで、帰ってきます。叔父さんがそれをつぶして(殺して)枝肉にしてハム工場へ納めます。

当時は自転車が貨物運搬車だったのです。またその仕事は捨てる所がなく、皮はなめして売れるし、モツは飲食店に売れるし、肉はハム工場に売れる、というわけで大いに儲かりました。儲けは叔父さんと山分けです。叔父さんはフィリピンで8年間苦勞してきましたので、死んだ戦友の人肉まで食べたそうなので、動物を潰すこと等「朝飯前だ」と言って平気でやっていました。私も教わってやりましたが、性に合わず、買い出しに専念しました。山羊乳も貴重品で乳の出る親子の山羊(16貫目位)を日当3,000円で葛飾の農家まで届けたこともありました。(叔父に頼まれて)帰り道、川崎の国道で、千円札が飛び散っているのが目に入り2,000円拾って来たことがありました。結局5,000円の破格な日当となり、大喜びしました。

終戦直後の生き様(6)

昭和23年10月12日 初店舗開店

鶴ヶ峰駅は無人駅で車掌が切符を受け取っていた。又鶴ヶ峰駅前には芋畑で水道のヒューム管置き場だった。直径1.5メートル位あったので、乞食が住み着いていた。理研ハム工

場の責任者松川さんが権利を握っていた「60坪の土地を私が納入した枝肉代金 20,000 円が払えないから交換してくれないか」という話が金子の叔父を通じてきたので OK する。半年前の話だった。当時は 1 坪 300 円が相場だった。60 坪だと 18,000 円だが譲歩して OK しておいたものだった。

叔父の知人峰岡の赤間さんが建物を 120 万円位で割賦払いで引き受けてくれました。店舗 3 坪、居間 6 畳、トイレと流しがついたごく小さいものでしたが、待望の自分の店が出来たのだからその喜びは一汐でした。小生満 20 歳の時でした。

取りあえずお惣菜屋さんを始めました。燃料はコークス、素焼きの大きい七輪にコークスを焚いて中華鍋にラードを溶かして、コロケ、めんちカツ、くしカツ、トンカツ、いもサラダ等、コロケは兎の骨を手動のチョッパーでひいて入れ、カルシュウム満点のコロケとして売り出した。当時はまだ食べるものが自由に手に入らなかったから、皆栄養が不足気味だったので、1 個 5 円のコロケが母と妹が調理して飛ぶように良く売れました。間口 3 間半の店だったので 2~3 ヶ月後、お惣菜は 6 尺（1 間）のケース 1 コでよいので、お菓子屋さんを始めることにしました。品揃えは日ノ出町の浅田屋にお任せしました。

尚、夜は朝鮮人の名前を借りて屋台でラーメン屋を始めました。ドブロクは相模大塚で降りて深見の朝鮮部落まで買い出しに行って、ラーメン屋で提供しました。日本人名義ではラーメン屋もできなかったのです。中華街は治外法権でお金さえ出せば何でも手に入ったそうです。ラーメン屋は半年位で警察の手が入り辞めさせられました。

それらの元手は、横浜空襲第 1 回目の昭和 20 年 4 月 15 日弾薬庫がそばにあったため 1 番先に狙われた堀之内の住宅が焼けた時の火災保険補償金 2,000 円を母が大事に保管しておいたものでした。

横浜空襲第 2 回目の昭和 20 年 5 月 29 日姉の会社の社長さんのご好意で借りていた吉野町の住宅が全焼。私は軍隊で埼玉県入間郡笠幡の農家に初年兵と二人で寝泊まりしていましたが、第 1 回の空襲で焼け出されたという母からの電報で 1 泊 2 日の休暇が出て吉野町

を訪ねて帰宅しました。その晩も空襲警報があり、暗い中で寝床につき、南京豆を食べていたが、明朝「母が南京豆の殻がないけどどうしたのかしら」と言われ皆あつけにとられていたが、結局達雄が殻毎たべてしまったらしいということになりました。自分では全く意識していませんでした。いかに飢えていたか想像できるでしょう。まだ 18 歳でしたからお腹も壊さず平気でした。

終戦直後の生き様 (7)

経済統制徐々に解除

えび印ゴム履物問屋に勤務。昭和 24 年 4 月から統制がはずれるので立川商店を復活したいから安藤さん手伝ってくれないか」と父の下で働いていた厚木の酒井さんが尋ねてきた。父は戦前えび印の長靴で有名だった立川織衛商店の一番番頭だった。昔の義理もあるので、お店の方は母と妹と使用人に任せて勤務することになった。その会社は高島町の養子夫婦の住居で始まった。昔は平沼にあった。

ゴム長靴、運動靴、地下足袋、サンダル等の卸で県下一帯がテリトリーだったから自転車で見本を積んで、靴の小売り屋さんを一軒一軒御用聞きに回り、注文品を届ける仕事である。横浜市内は勿論、昔のお得意だった横須賀、三崎、小田原、松田の靴屋さんを酒井さんの案内で回り、顔つなぎをしてもらい、自転車で飛び廻った。大きい荷物は荷造りして、鉄道便で送った。その荷造りがたいへん、長靴を筵で包んで荒縄で縛る、弾力があるのでコツがいる。慣れるまで苦勞した。

終戦車後の生き様 (8)

さがみ百貨店に勤務

将来はショッピングセンターかデパート経営を夢見ていたので、とりあえず洋品店と思っていた。その矢先に「相鉄が大和に百貨店をつくることになり、四季美台の吉田長寿さんが社長になるそうだ」という情報を金子の叔父がもってきてくれた。その吉田さんは Y 校の大先輩だった。（旭 RC に在籍していた吉田博茂さんのお父さん）早速、就職依頼の手紙をだした。就職が決まったので、立川商店を退職（2 年位の勤務だった。）昭和 26 年秋さがみ百貨店開店、（百貨店と言っても 120 坪位のこじんまりしたものだった。）私は何でもやったので、店頭販売、荷物の開梱荷造り、

会計等、夜遅くまで重宝に使われた。衣料品関係は役員の土屋さんが担当（元ふとんやだったので）していたので、私はお供で仕入れに連れて行って貰った。自宅に内風呂がなかったのも、銭湯を利用していたが、11時半で閉店だから幾日も風呂に入れず、度々長後の西条の自宅へ電話して風呂に入れてもらい泊めてもらった。寒風の吹く中でも、店頭で立って販売していたので、風邪を引き、遂にダウンしてしまい高熱が続き、鶴ヶ峰駅上の佐竹医院に往診に来て貰っていたが、当時は良い薬も無く、睾丸炎になってしまった。高熱が半年も続き、ふとんを通して畳が腐ってしまった。いくらか良くなって来た頃、厚木の岡田からさがみ百貨店に通っていた小縄さんという女の子が見舞いにきてくれた。（私が好きだったらしい）病氣療養しているうち、線路際の片屋根の家が、「貸家を出た家賃は月額4,000円」と又金子の叔父から話がきた。山本弥太郎さん（鶴ヶ峰の住人）の持ち物だが、親戚に2,000円で貸していたが、家賃が滞ってしまったので、出て行ってもらったとのことだった。ちょっと高いと思ったが、何か商売ができるのではないかと思って借りることにした。

終戦直後のいきざま (9)

衣料品の始まり

片屋根の家を改造して3坪の店を作った。弟と共同経営するつもりで、弟の退職金6万円と手持ち金5万円は、店の改造費で終わってしまった。商品の仕入れ資金がゼロ。止む無く又久保さんに20万円都合してもらった。月1割の利息だから毎月2万円の利息を届けた。手始めに手芸材料の店にした。東京中野の手芸屋さんへ仕入れに行った。小売屋さんだったが、こちらは何も分からないので、小売りのノウハウから教えてくれるというので、すべて手に取って教えて貰い、何とか開店にこぎつけた。だんだん忙しくなってきたので、弟が22歳でまだちょっと早かったが結婚してもらい人手を増やした。お惣菜の方で働いていた従業員で實に良く働いてくれた川井の農家の娘だった。しかし、弟は翌年23歳で腎盂炎で他界してしまった。その内、関連用品の生地（布地の反物）を扱うようになった。扱う品が少しずつ増えて店が狭くなり、奥の6

畳間を店にした。母の姉の嫁ぎ先（東川島町の足立さん）の知り合いで、霊友会仲間だった西谷の鈴木洋品店さんに、東京馬喰町の清水繊維という問屋を紹介してもらい、それから本格的に洋品店の品揃えになった。

昭和36年(1961年)10月鶴ヶ峰駅前の店を全面改装して1階の店24.5坪を全部洋品店にしたらこれが大当たりして年商1億円に及んだ。この先どうしたらよいか、コンサルタントの先生を呼んで相談したところ「坪当たりの売り上げが限界だから店を大きくしなさい。場所は多少悪くなくてもよいから」とのこと。そこで裏の住宅を買収してロイヤルマートを設立、とりあえず55坪の2階110坪を借りて洋品店を移動、その後増設して250坪で年商5億円まで行ったが、利益が出ず2013年6月廃業、土地建物は2億5千万円で分譲してもらい、パチンコ屋に貸して今日に至っています。結局鶴ヶ峰で52年間洋品店をやっていました。ですから私の前の職業分類は衣料品小売り業でした。

私の生き様(結び)

いずれにしろ今に至るまで、鮎忠のお惣菜2店、パーラー、カウンターレストラン、焼肉チェーン2店、貸レコード6店、どさんこラーメン6店、つぼ八、山田うどん、ジーンズショップ、イトキンの高級婦人服4店、等々、儲かりそうな店を次から次へと手掛けましたが、何一つものにならず、結局55店舗閉鎖致しました。

商売とは、それほどむづかしいものです。儲かりそうな商売はすぐに近所に同じような店を作られてしまうからです。

話はとびますが、私達の金婚式はもう10年前のことですが、子供4人の夫婦と孫12人とひこ2人、私達を入れて総勢24人全員揃って祝ってくれました。今でも皆元気です。これは私達の自慢できることではないでしょうか。最後に私の座右の銘をご紹介します。終わります。

「どんな苦勞もいとやせぬ

親の生きざま見て励め」

ご静聴ありがとうございました。

■次週の卓話

2/17(水) 職業卓話

今野 丁三会員

週報担当 杉山 雅彦